

定置網漁業におけるクロマグロ小型魚の保護と漁業経営の両立

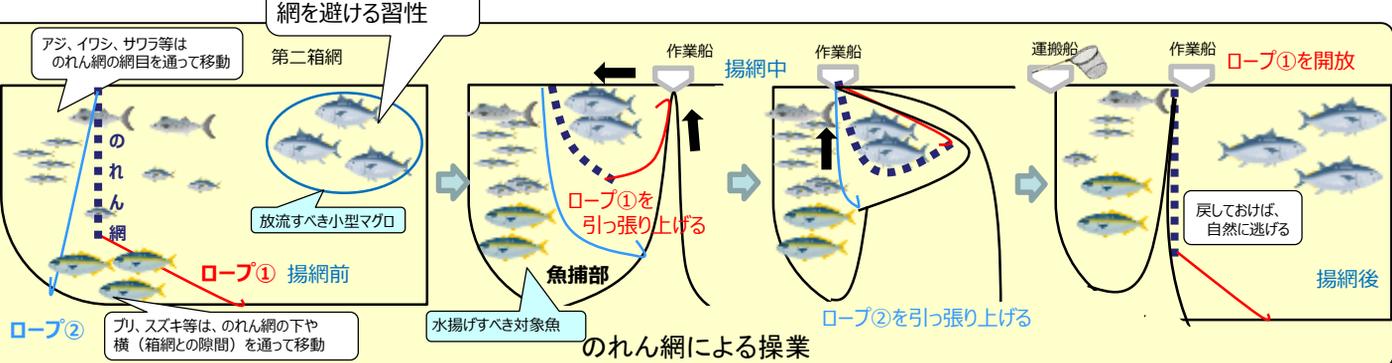
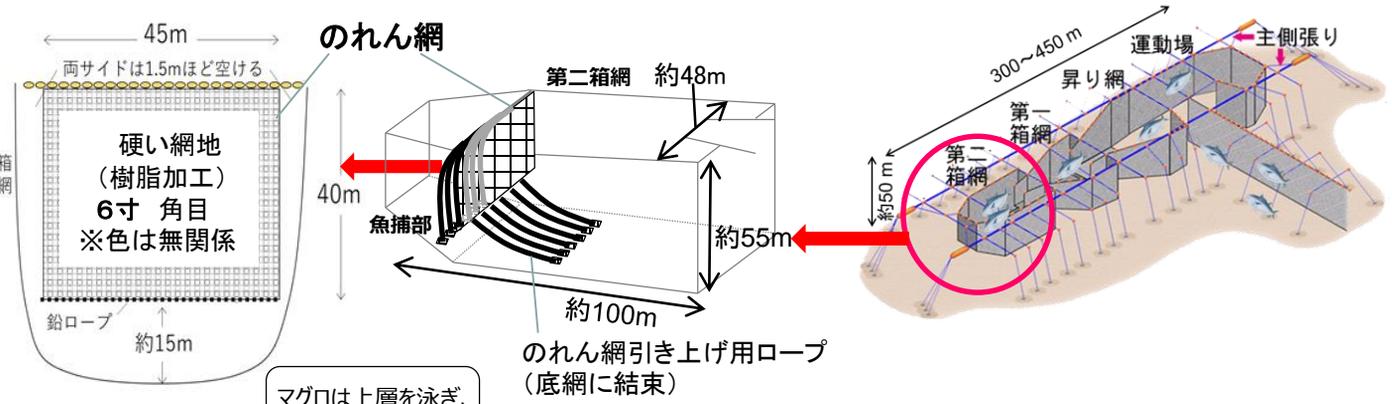
定置網に入網したクロマグロを保護し、他の入網魚種のみを漁獲する“のれん網”を開発しました。

背景

- 国際的な取り決めにより、絶滅が危惧される太平洋クロマグロの小型魚の漁獲枠が大幅に削減された。混獲による漁獲枠超過を防ぐには、小型魚が大量入網する1～2月に定置網を休漁せざるを得ず、損失が発生する。 ※小型魚：30kg未満

課題等

定置網に入網したクロマグロ小型魚を効率的に放流し、ブリやアジなど他の魚種のみを漁獲可能な網の開発が必要



研究成果

- 箱網を“のれん網”で仕切ることによって、マグロを保護し他魚種を漁獲することが可能となった。
- 調査漁場における“のれん網”の最適な仕様を決定した。
※網地：樹脂加工した硬いもの、目合：6寸(9cm角)、のれん網と箱網の間(片側1.5m)や底網との間(約15m)
- 定置網での選択漁獲の可能性を示した。

■技術導入前 0円 ※1,2月の休漁損失

■技術導入後 23百万円 ※1,2月の休漁損失の回避(現状の収入確保)

今後の展開 ※クロマグロ小型魚の漁獲量が多い1,2月の過去3カ年平均漁獲金額(1経営体あたり)

国際的な漁獲計画の状況変化やクロマグロの入網状況に対応しつつ、小型魚の漁獲量が上限に達した場合のリスク回避技術として定置網漁業者への周知を図ります。